

報告事項コ

平成25年度PTA日韓交流事業について

平成25年度大韓民国江原道とのPTA交流について、別紙のとおり報告します。

平成25年11月18日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度PTA日韓交流事業について

平成25年11月18日

家庭・地域教育課

1 趣 旨

環日本海諸国（大韓民国）のPTA関係者との交流の促進を図ることにより、相互理解と友好を深め、子どもたちの健全育成に向けた活動をより一層発展させる。

2 期 間

平成25年10月8日（火）～11日（金）（3泊4日）

3 訪問団

団長 鳥取県高等学校PTA連合会副会長 1名

副団長 鳥取県PTA協議会ブロック理事 1名

団員 鳥取県高等学校PTA連合会2名、鳥取県PTA協議会1名

国公立幼稚園PTA1名

事務局および通訳3名 (計9名)

4 概 要

10月9日（水）

○ コンヒョンジン 公峴津初等学校訪問

・施設見学、授業参観、意見交換会

○文化施設見学

・ オチュクホン 烏竹軒（韓国の道德教育の模範とされる母子の生家）

○江原道学校運営委員会との意見交換

・家庭での保護者の役割及び保護者団体の活動への参画促進について

10月10日（木）

○ キョンボ 鏡浦幼稚園訪問

・施設見学、授業参観、意見交換会

○ カンヌン 江陵女子高等学校訪問

・施設見学、授業参観、意見交換会

5 詳細

(1) 公峴津初等学校訪問

知性だけでなく、体の均衡発達を通じ、想像力と感性の開発を重視し、全人教育を目指す「シュナイター教育」を実践する学校であった。

児童の発達段階に応じて教室環境も工夫され、例えば1，2年生では骨の発育が不十分なことから座机を使用していた。また、カーテンの色も学年によって変えるなどの工夫がされていた。

体育館では、一輪車、ジャグリング、フラフープ、皿回しなどをしながら、体のバランス感覚を身につける「動きの教育」が行われ、子どもたちは思い思いに熱中して取り組んでいた。

また、校舎周りの自然環境を活かした学習や天然素材を活用したものづくりなど、体験を重視した教育活動について説明を受けた。



発達段階に配慮した教室環境



「動きの教育」の様子

(2) 江原道学校運営委員会との意見交換

学校運営委員会（教師・保護者・地域住民等から構成され、教育課程や教科書選定等について審議する法定機関）と家庭での保護者の役割や、保護者の参画等について意見交換を行った。

保護者の家庭での取組として、本県からは、早寝・早起き・朝ごはんやノーテレビデー等の取組が、江原道からは、食卓での礼儀教育、忙しい中でも、朝食を家族で一緒に食べるようにする食膳教育等が紹介され、子どもの教育における家庭の大切さについて相互に確認した。

また、保護者団体の活動への参画が少ないことについては、江原道でも苦慮しているとの説明があり、参加者を増やす工夫として、夜に会合を行ったり、役員が声をかける等、韓国でも同様の課題があることを知った。



意見交換会



学校運営委員会

(3) 鏡浦幼稚園訪問

子ども一人一人の特長を生かし、自主性を大切にした教育が実践されていた。

自然との関わりを大切にしたプログラムでは、裏山の木々の中で心に残ったことを写真に撮り、その作品を集めて写真の展示会を開催したり、外遊び、畑での野菜栽培等に取り組んでいた。また、祖父母や地域社会機関と連携しようと努力していた。

園内環境についても、壁面の心和む色彩や廊下の一角を利用した読書スペース等、子どもたちが園内で楽しく過ごせる工夫が見られた。

本県と比較し、園内の環境面や人員面は大変手厚いものだったが、家庭や保護者との協働については、まだ不十分な印象を受けた。



授業の様子



壁面を利用した書棚

(4) 江陵女子高等学校

教員や新聞記者など人文系を中心に、大学進学率100%を誇り、難関大学への合格者も毎年出している韓国屈指の女子高校。

私教育が盛んな韓国にあって、保護者の経済的負担を軽減するため、塾などに行かなくとも十分な力が身につく教育を行う一方で、音楽など芸術的素養を身につける部活動も60種類あり、積極的に奨励している。

また、キャリア教育の一環として、水曜日には進路体験活動にも取り組んでいる。

さらに、儒教に基づく女子道徳教育も行い、いじめの発生件数もゼロとのことであり、模範的な女子高校であった。



個人の席がある自習室



美術の授業風景